

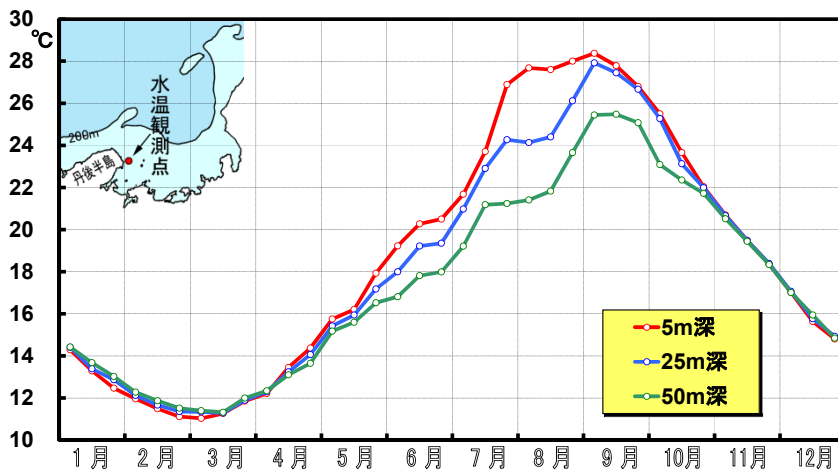
京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話: 0772-25-3078 FAX: 0772-25-1532

海の状況 ～2012 年 1 月から 12 月まで～

表層の水温は、冬～春に例年並みか低めでしたが、太平洋高気圧の勢力が強まった夏から秋にかけて例年よりかなり高めで推移しました。その後、晩秋には降温が進んで例年並みの水温となりました。

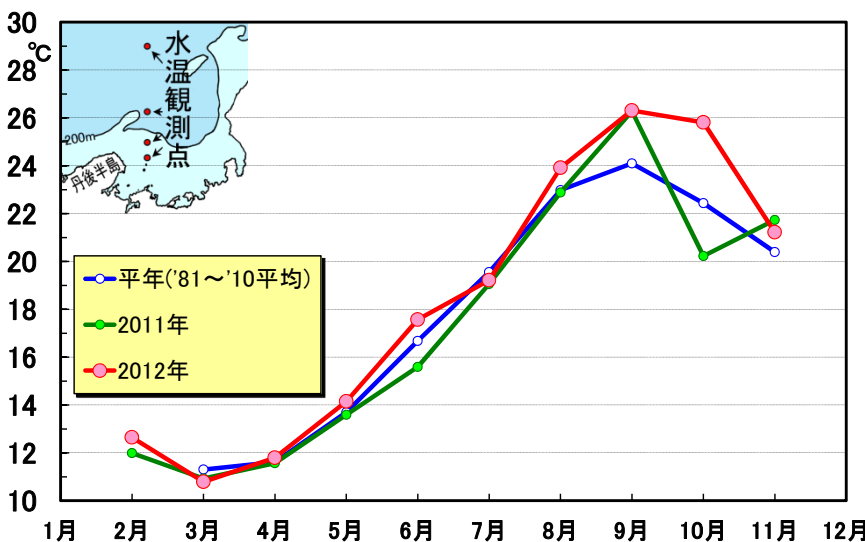
京都府沿岸 (伊根町新井崎地先 海深 64m) の水温



月平均水温と平年差 (括弧内)

単位: °C	5m 深	25m 深	50m 深
1 月	13.3(-0.2)	13.6(-0.2)	13.7(±0)
2 月	11.5(-0.1)	11.7(-0.2)	11.9(±0)
3 月	11.4(-0.1)	11.5(-0.2)	11.6(-0.3)
4 月	13.3(±0)	13.2(±0)	13.0(-0.1)
5 月	16.6(+0.4)	16.2(+0.4)	15.8(+0.3)
6 月	20.0(+0.2)	18.9(+0.2)	17.5(-0.1)
7 月	24.1(+0.5)	22.7(+0.4)	20.5(±0)
8 月	27.8(+1.6)	24.9(+0.5)	22.3(+0.6)
9 月	27.7(+2.3)	27.3(+3.4)	25.3(+3.8)
10 月	23.7(+1.3)	23.5(+1.2)	22.4(+0.9)
11 月	19.5(±0)	19.5(±0)	19.4(±0)
12 月	15.8(-0.6)	15.9(-0.5)	15.9(-0.5)

京都府沖合の表層水温 (0～50m 深平均)



各月水温と平年差

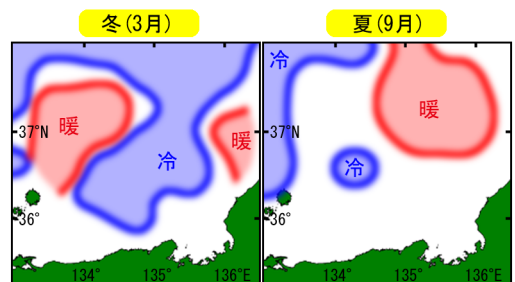
単位: °C	水温	平年差	評定
1 月			観測なし
2 月	12.6		データ過少につき評定なし
3 月	10.8	-0.5	やや低め
4 月	11.8	+0.2	平年並み
5 月	14.2	+0.5	平年並み
6 月	17.6	+0.9	やや高め
7 月	19.2	-0.4	平年並み
8 月	23.9	+0.9	やや高め
9 月	26.3	+2.2	かなり高め
10 月	25.8	+3.4	はなはだ高め
11 月	21.2	+0.8	やや高め
12 月			観測なし

京都府沖合の水塊配置

資料元: (独)日本海区水産研究所

暖水域は、若狭から能登の沖合でその形状を変化させつつ秋以降に大型化しました。

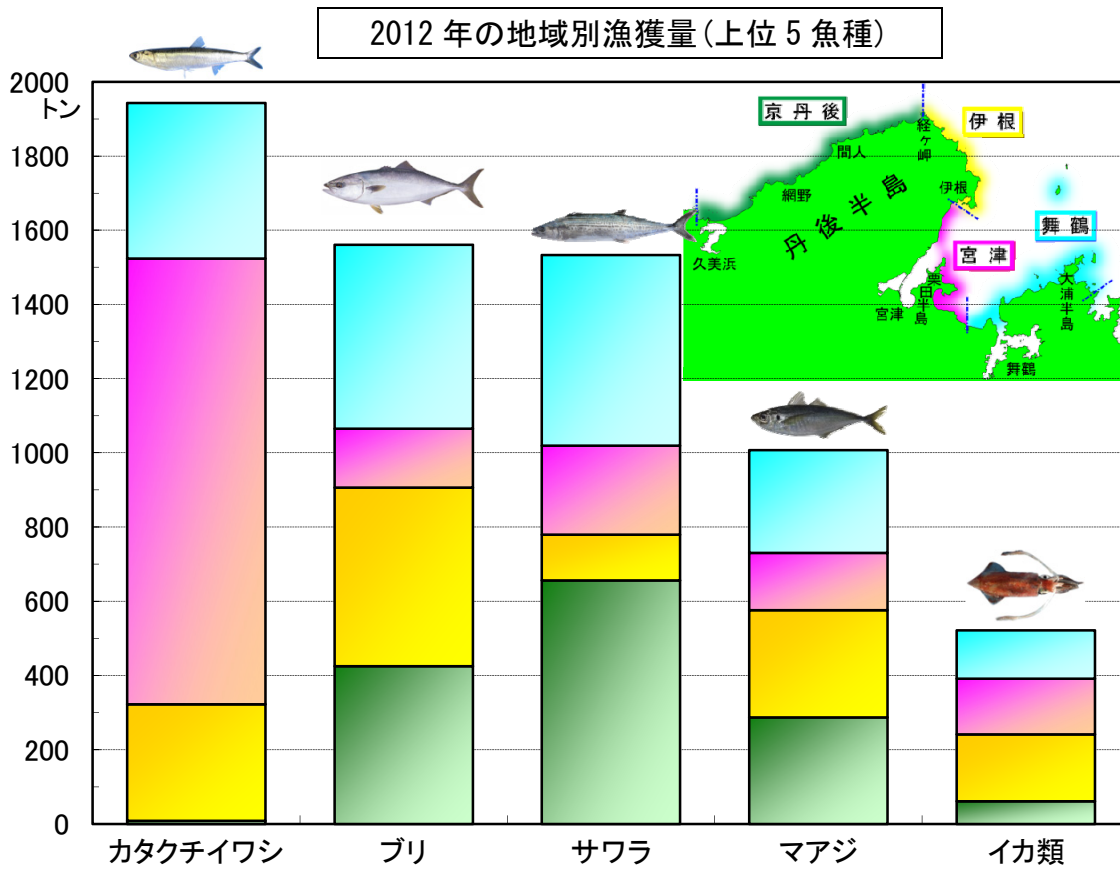
若狭沖の冷水域の勢力は冬から春には平年並みでしたが、夏から秋にかけて弱まりました。



漁模様 ～2012年1月から12月まで～

【定置網漁業】

ブリやサワラ、カマス類、トビウオ類、シイラなどが好漁でした。一方、カタクチイワシやマアジが不漁でした。全体では平年の9割弱で前年並みの水揚げでした。

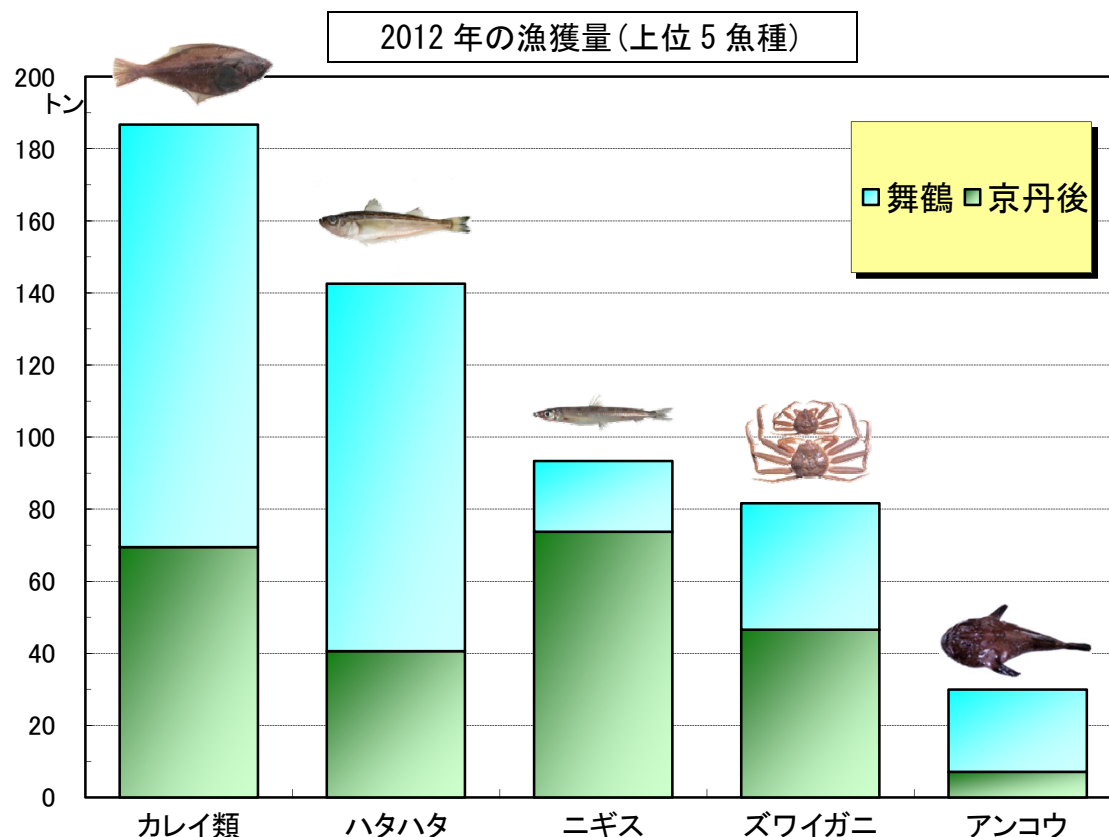


年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考	
カタクチイワシ <small>(たれ)</small>	1942	2304 (84%)	2788 (70%)	<カタクチイワシ> 混ぜり銘柄(カタクチイワシの他に小さなアジ類やサバ類、マイワシ等も混ざったもの)も含めて集計。	
ブリ	1561	1080 (145%)	1151 (136%)	<ブリ> つばす銘柄が1234トン、はまち銘柄が110トン、まるご銘柄が80トン、ぶり銘柄が137トンでした。	
サワラ	1533	1238 (124%)	1353 (113%)	<サワラ> さごし銘柄が1339トン、さわら銘柄が194トンでした。	
マアジ	1007	1127 (89%)	2185 (46%)	<イカ類> ケンサキイカ(白いか)が140トン、アオリイカ(秋いか)が129トン、スルメイカが118トン、ソデイカ(たるいか)が96トン、ヤリイカ(冬いか)が24トンなどでした。	
イカ類	522	560 (93%)	467 (112%)		
カマス類	425	302 (141%)	195 (218%)		
トビウオ類	330	158 (210%)	152 (217%)		
シイラ	314	113 (279%)	190 (165%)		
カツオ類	244	133 (184%)	183 (134%)		
マイワシ	181	494 (37%)	80 (225%)		
その他	1171	1472 (80%)	1884 (62%)		
合計	9230	8979 (103%)	10629 (87%)		

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

主要な魚介類は例年よりやや少漁気味で、全体では平年の8割、前年をやや上回る水揚げでした。

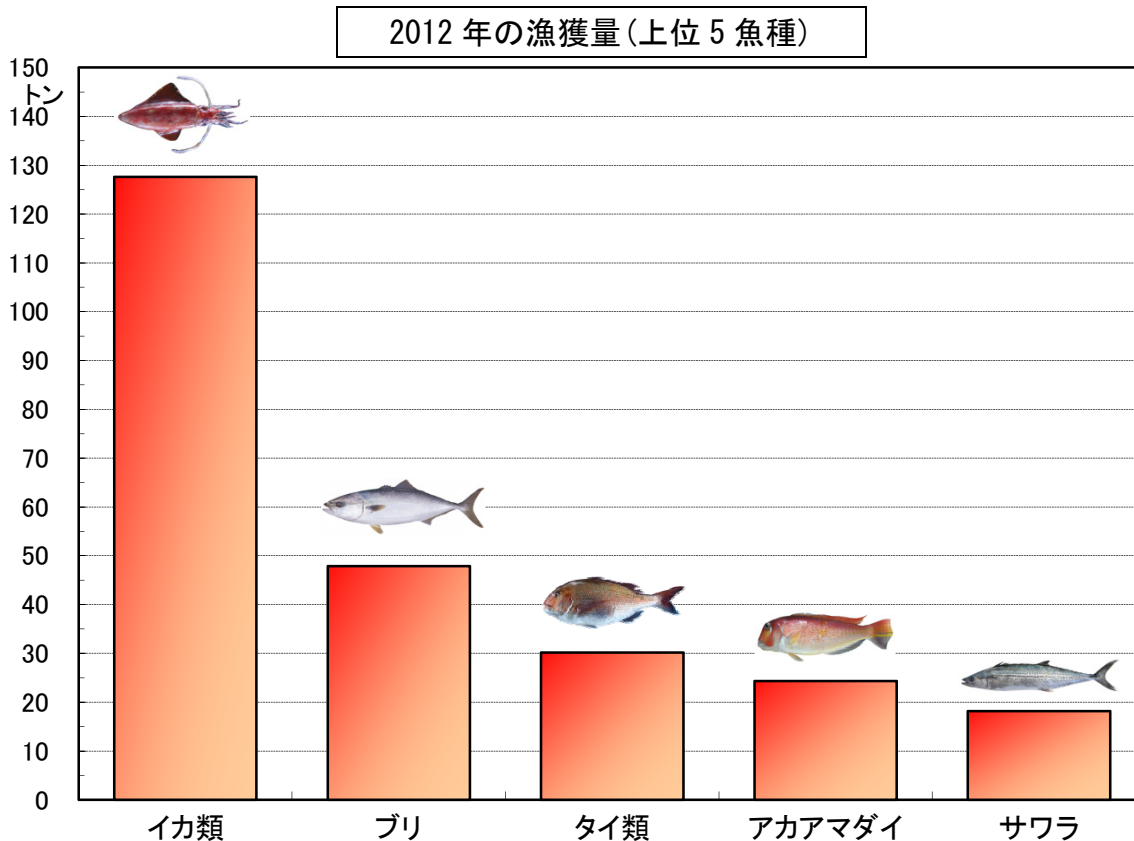


年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	187	207 (90%)	241 (77%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が121トン、ソウハチ(えてがれい)が27トン、ヒレグロ(黒がれい)が18トン、ムシガレイ(水がれい)が10トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が9トンなどでした。 <ズワイガニ> オス(間人がに・舞鶴かに)が36トン、メス(せこがに)が46トンでした。
ハタハタ	143	64 (222%)	194 (73%)	
ニギス(沖きす)	93	112 (83%)	107 (87%)	
ズワイガニ	82	60 (136%)	109 (75%)	
アンコウ	30	31 (97%)	29 (105%)	
タイ類	16	17 (94%)	12 (132%)	
タコ類	10	9 (120%)	16 (66%)	
貝類	9	9 (101%)	9 (102%)	
イカ類	6	14 (46%)	10 (62%)	
タラ類	4	3 (131%)	2 (244%)	
その他	42	40 (104%)	50 (84%)	
合計	622	566 (110%)	779 (80%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

主な釣獲対象となる魚介類のなかでは、ソデイカが好漁でした。全体ではほぼ平年並みで、前年をやや上回る水揚げでした。



年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
イカ類	128	73 (175%)	95 (134%)	<イカ類> ソデイカ(たるいか)が96トン、スルメイカとケンサキイカ(白いか)がそれぞれ14トン、アオリイカ(秋いか)が2トンなどでした。
ブリ	48	54 (89%)	60 (79%)	
タイ類	30	35 (86%)	33 (92%)	
アカアマダイ <small>(ぐじ)</small>	24	21 (114%)	24 (100%)	
サワラ	18	19 (94%)	24 (77%)	
メバル類 <small>(もいお)</small>	13	15 (88%)	14 (95%)	<ブリ> まるご銘柄が5割弱、はまち銘柄が4割弱、ぶり銘柄が1割強、つばす銘柄が若干量でした。
ウマヅラハギ <small>(長はぎ)</small>	6	13 (46%)	10 (63%)	
マアジ	5	5 (94%)	8 (61%)	
スズキ	2	2 (92%)	5 (45%)	<タイ類> マダイが6割強、レンコダイが3割強、クロダイとチダイが若干量でした。
カレイ類	2	2 (130%)	2 (80%)	
その他	28	30 (94%)	37 (77%)	
合計	305	270 (113%)	312 (98%)	


平年は過去10年平均

【2012年の特異的なできごと】

冬	<ul style="list-style-type: none">・マイワシが定置網で好漁 (3月に平年比約19倍の141トン)。	
春	<ul style="list-style-type: none">・4月初旬に日本海上で急速に発達した低気圧の影響で急潮や高波が発生し、丹後では漁業被害が多発(大型定置網8統損壊など)。・クロマグロ(体重50~60キロ級主体)が定置網で好漁 (5~6月に平年比2.2倍の19トン)。・トビウオ類が好漁 (6~7月に平年比2倍の311トン)。	
夏	<ul style="list-style-type: none">・9月中旬に朝鮮半島付近を北上した台風16号の影響で急潮や高潮が発生し、丹後では定置網の損壊や海岸付近の土地・建物の浸水被害が発生。・サワラ当歳魚(さごし)が主に定置網で好漁 (9~10月に平年比1.5倍の562トン)。・エチゼンクラゲは3年連続で大量来襲せず (前年よりは多かったが、8月~11月に定置網や底曳網に少量入網した程度)。	
秋	<ul style="list-style-type: none">・カマス類(主にアカカマス)が定置網で好漁 (9月~11月に平年比2.3倍の193トン)・ブリ当歳魚(つばす)が定置網で好漁 (10月~11月に平年比2.6倍の534トン)・ソデイカ(たるいか)が好漁 (10月~11月に平年比1.5倍の117トン)・ブリ(体重9~11キロ級主体)が定置網で好漁 (12月13日に舞鶴市田井で約6000尾水揚げ)	 

【2012 年に見かけた珍しい魚】

下の写真は、2012 年に丹後の海で見られたあまりなじみのない魚の一例です。秋以降、アミモンガラやソウシハギなど南方系のカワハギの仲間を目にする機会が例年よりも多かった印象を受けました。

ナガユメタチモドキ	
	
<p>全長：2m 以上 (写真個体は 2.5m) 分布：南日本 特徴：タチウオに似ていますが、小さな尾びれがあります。この標本は 3 月に舞鶴沖で採捕されました。前年 3 月の伊根沖に続く採捕例です。</p>	

イソアイナメ	シマソイ	ハクセイハギ
		
<p>体長：30cm (写真個体は 25cm) 分布：南日本の太平洋岸 特徴：タラ目チゴダラ科の魚で、下あごに長いひげがあります。食用。</p>	<p>体長：30cm (写真個体は 26cm) 分布：北日本 特徴：メバル科の魚で、体側に 2 本の黒いしま模様があります。食用。</p>	<p>体長：30cm (写真個体は 20cm) 分布：本州中部以南 特徴：カワハギ科の魚で、体側に白斑模様があります。食用。</p>

ギマ	ソウシハギ 	アミモンガラ
		
<p>体長：30cm (写真個体は尾さ長 26cm) 分布：本州中部以南 特徴：フグ目ギマ科の魚で、背びれと腹びれが硬くとがっています。食用。</p>	<p>体長：50cm (写真個体は 37cm) 分布：本州中部以南 特徴：カワハギ科の魚で、体表に青い模様があります。内臓には猛毒を含むと言われています。</p>	<p>体長：50cm (写真個体は 20cm) 分布：世界各地の温熱帯域 特徴：モンガラカワハギ科の魚で、まれに丹後の海に多数漂着することがあります。食用。</p>

イシガキフグ	イラ	メカジキ 
		
<p>体長：65cm (写真個体は全長 29cm) 分布：本州中部以南 特徴：ハリセンボン科の魚ですが、ハリセンボンのように棘を立てることはできません。</p>	<p>体長：40cm (写真個体は全長 40cm) 分布：本州中部以南 特徴：ペラ科の魚で、淡い赤色の体側には背びれから胸びれにかけて黒い帯模様があります。食用。</p>	<p>体長：3.5m (写真個体は全長 1.5m) 分布：世界中の温熱帯域 特徴：吻が平たいことで、丹後の海で比較的好く見られるカジキの仲間(バショウカジキやシロカジキ)と区別できます。食用。</p>

参考文献：北隆館「新訂原色魚類大図鑑」

今回、標本や情報のご提供を頂いた栗田漁業生産組合、三共水産有限会社ほか漁業関係者の皆様には感謝いたします。珍しい海の生物を発見された場合には、当所までご連絡いただけると幸いです。